

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日 水曜日 13:00～14:00

会長 藤谷 猛

例会場 ANA クラウンプラザ
グランコートホテル名古屋

幹事 深見 礼子

承認 2013年6月18日

公共イメージ
向上 岩崎 幸弘



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度名古屋アイリスRCのテーマ

共に活動し、共に奉仕し、
共に頑張るアイリス

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp

第214回 例会

2018年1月17日 13:00

- 司 会：島村恵三例会運営・司会委員
- 斉 唱：我等の生業
- 出席報告：出席者数 28名 / 会員数 43名
出席率 65.11%
前々回(212回)修正出席率 66.66%
- ゲスト：米山奨学生 張宵宇(チョウショウウ)さん
- ビジター：

ニコボックス

- 張さん。卓話を楽しみにしております。(藤谷猛会長)
- 雨の中、ごくろう様です。張さん、本日よりしくお願ひします。(竹内祐子会長エレクト)
- 深見幹事、藤谷会長、色々ご心労もお有りかと思ひます。しかしながら、振り返ってみたらもう半年が過ぎました。二人力を合わせて、後半6ヶ月頑張つて下さい。応援します。感謝。(櫻井孝充直前会長)
- 久しぶりに鬼頭さんにあいました。いつもありがとうございます。(安井戦略委員長)
- 昨年末の家族会には、たくさんの会員およびご家族の皆様がご参加下さいまして誠にありがとうございます。本年も楽しく活動してまいりたいと思ひます。宜しくお願ひ申し上げます。(深見和久さん)
- 張さん、本日は卓話を楽しみにしておりますので、がんばって下さい。

会長挨拶

みなさん、こんにちは。

年も新たまり、年の初めに経営について考えてみました。かなり古い話ですが、20年ほど前に読んだ本を思い出して、心を新たにしましたので、そのお話をさせて頂こうかと思ひます。

古い本ですので、当時読まれた方が、ここにもおられるかと思ひます。その本は「経営に終わりはない」という題名でした。藤沢武夫という方が自らの半生と経営理念を書かれたものです。藤沢さんは、自動車のホンダを本田宗一郎さんとの二人三脚で世界的企業を

育てあげた名経営者でした。ホンダが、今日のように世界中に名を馳せるまでには数々の節目がありましたが、この二人はそれを乗り越え今日に至ったのであります。

ホンダが、まだ町工場だったとき宗一郎は何かのきっかけで経理端の人間を紹介してもらい自宅で会うことにしました。それが藤沢武夫だったのですが、その時はお互いに相手を疑心暗鬼で見つめていたのでしょう。やんちゃでとんでもないことを仕出しそうな総一郎でしたが、藤沢は奥さんの出された手料理を食べたときに、その対応に感動し、すべてを信用したと



言っています。一方、一目で信用した総一郎は藤沢に、その場で通帳と実印を渡し、会社と自分のすべてを任せてしまいました。宗一郎は、とんでもない男だったようです。

この時から技術は本田宗一郎、経営は藤沢武夫という暗黙の了解で進んで行きました。その後、ホンダはオートバイで大ヒットを飛ばし一気に成長しますが、キャブレターに原因不明の欠陥が見つかり倒産の危機に見舞われます。宗一郎は懸命に原因究明を行います。その間、藤沢は銀行や取引先に手を尽くし危機を脱します。そして会社が成長を続ける中、工作機械の導入で莫大な投資をする必要があったときには、口を出させないよう総一郎に世界でトップのオートバイレースを見学に行かせ、その間に銀行と話を付け、一発勝負でかたをつけました。そして、その後もアメリカへの進出など数々の難局を乗り越え現在に至って

います。

社員をスパナでたたいて教えるような天才的技術者の総一郎と、常に理論的な藤沢の深い絆があったからこそ町工場は世界に進出できたのでしょう。こんな話もあります。ホンダは、会社に総一郎の身内がいません。ホンダが大きくなってきたとき、工場長を宗一郎の弟さんが務めておりました。熟慮の上、未来を考えた藤沢は、どんなに人物が優秀でも会社に身内をおいてはならないと宗一郎に伝えたのです。宗一郎は、藤沢の言うとおりに弟を退社させました。その後、息子も会社には入社させていません。藤沢の哲学の表れだったのでしょう。

その息子は、後にレーシングエンジンの「無限」を創業しております。とてもじゃないですが一般的には、考えられない決断だったと思います。しかし、人の人生には、いつか終わりが来ます。その本の終わりには、こんな記述があります。当時、副社長であった藤沢武夫の言葉です。

昭和48年の正月に、私はいいました。
「かねてから考えていたとおり、今年の創立記念日には辞めたいと思う。・・・専務から私の意向を(社長に)伝えてもらいたい」

宗一郎は私のことを聞くとすぐ、
「二人いっしょだよ、おれもだよ」

といったそうなのです。・・・

その後、顔を合わせたときに、こっちへ来いよと目で知らされたので、私は総一郎の隣に行きました。

「まあまあだな」

「そう、まあまあさ」

「ここで、いいという事にするか」

「そうしましょう」

すると、総一郎はいいました。

「幸せだったな」

「本当に幸福でした。心からお礼をいいます」

「おれも礼をいうよ、よい人生だったな」

そして二人は一緒に引退しました。

当時、ここで涙が出そうになったことを思い出しました。この二人の出会いは本当に素晴らしいものでした。神様のルールのようなものがあつたのでしょうか。

みなさんの会社には、このような相方がおられますでしょうか。自分の会社を振り返ると本当に色々な事を考えさせられます。20年前の本ですが、本当に心に響きました。自分も年を重ね、当時とは違う感情が込み上げてきます。まだまだ頑張らなくてはと心を新たにしました。

会長挨拶を終わります。

■幹事報告

深見幹事より 1点報告がありました。

① チャリティーゴルフコンペについての連絡でした

■卓話

米山奨学生 張宵宇さんから

ご自身が研究している「漢服復興運動」についての話がありました。



最近の中国の若者たちが、自国の古い時代の民族服を新たに作り、着るといふ復興運動があるそうです。